

京田辺市産業振興ビジョン検討ワークシート（工業分野）

1. 現状と課題

分類	現状と課題
担い手	<p>【人材確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経営課題の1位=人材確保。《事業所アンケート》 ○京田辺市立地のデメリットとして「人材確保が困難」と回答する企業が多い。《事業所アンケート》 ○同志社大学からの応募が無い。特に新卒者の採用が困難。(市内企業が知られていない。出身が地元ではない場合が多い) ○インターンシップやOB面談、工場見学、出前授業など実施し、田辺高校から採用数を確保している企業もある。 ○同志社大学だけでなくJR学研都市線沿線の各大学との連携で求人の母数を拡大すべき。 ○居住者割合として新興住民が占める割合が多く、新興住民は大阪・京都など他市すでに職に就いている。 ○田辺高校では、毎年、定期的に複数名採用のある企業が少ない。 <p>【人材育成・事業承継】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○力を入れている取組の1位=人材育成・後継者確保。《事業所アンケート》元気〔高収益〕な企業ほどこのことを強く意識している。 ○事業所廃止理由の1位=後継者不足。《事業所アンケート》 ○対象者（子息等）に後継の意思がない、代表者に事業を後継させる考えが無い場合も多い。 ○田辺高校の面接指導には市内の参加企業が少なく、生徒の市内企業への認知度が低い。 <p>【創業・起業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな担い手として、起業・創業を促して、新たな産業を産み出すことにより、既存企業、市内産業の活性化に繋がる。 ○同志社大学内にD-eggがあるが、成長し市内進出している企業がない。 ○インキュベーション施設から卒業した後の受け皿（ポストインキュベーション）がないため、市外に流出している。 <p>【全体・その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○労働力人口、求職・求人数とも一定規模あるが、充足数が低い。 ○商業－工業の繋がりをもっと密にし、もっと深く繋がれる仕組みと、それを活かせる中心的組織づくりが必要。 ○企業と田辺高校、同志社大学等の教育機関との繋がりをもっと深めるべき。ネットワーク不足。 ○田辺高校では市内の企業と何か連携事業を考えた時に、生徒の移動手段が不便。
製品・販路	<p>【企業－企業（産産）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業間ネットワークを求める事業者が多い。企業ニーズを取り持つ仕組みが必要。 ○中小企業全体で仕事を受けられる仕組みがあればよい。 ○市内大手企業と中小企業との関係が薄い。調達先が市内で見つからない企業が多い。 <p>【企業－学術機関（产学）/事業高度化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同志社大学・女子大学が立地しているが、市内での产学連携が進んでいない。 ○学研都市研究機関が近隣に立地しているが事業高度化など活用が出来ていない。 ○同志社大学と共同研究している企業との連携・誘致が必要。 <p>【新分野進出・販路開拓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○力を入れている取組の2位=新規分野進出。《事業所アンケート》 ○新分野進出（新規顧客の開拓、製品・技術開発等）の意欲が高い企業が多い。この面での支援策の充実が必要。 ○支援施策と企業を結びつけるコーディネート（目利き）機能が必要。（支援策の使い方が分からぬ企業も多い） ○製造業者はモノは作れるが、作る事に専念しがち。工業と商業の連携、作り手と売り手のマッチングが必要。 <p>【全体・その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市全体として得意とする製品・業種がはっきりしていない。（特定業種の集積・特色が弱い）。 ○繋がれる素材、組織が豊富なまちなので、この繋がりをもっと活性化して発信し続けるべき。 ○市内だけでなく、学研都市間（広域）での連携が必要。
土地・環境	<p>【市内交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物流上の道路利便性は非常に高いが市内交通が脆弱。 ○バス利便性が悪く（本数が少ない）、通勤に使えない。○バスの表示（ルートや停車場の案内等）が分かりにくい。 ○国道307号（甘南備台）、山手幹線・八幡木津線（大住工専）の朝・夕の渋滞が酷く通勤に支障が出ている。 ○甘南備台（307号線沿い）は歩道がなく、歩行困難、また外灯がなく暗い。河内峠バス停は暗すぎて危険、利用できない。 ○市内企業へのインターンシップ（田辺高校）の交通手段がない。 <p>【利便施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ビジネスホテルのニーズ（出張・来客）が多い。しかし接待出来る飲食店がなく、市内にホテルが出来ても利用しにくい。 <p>【土地利用・企業誘致】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市外からのアクセスが非常に発展しており、企業誘致のポテンシャルは高い。もっと事業用地の確保、市街化を進めるべき。 ○新名神高速道路開通もあり、企業としての利便性はさらに高くなる。 ○企業立地ニーズは高いが新たな事業用地がない。府道22号線から西の大住・松井の地域の土地が有効活用されていない。 ○工業地域の柱になる産業育成分野を明確に打ち出し、関連企業の集積を図るべき。 ○工場立地法の緑地率低減、駐車場用地の確保など、既存用地有効活用が望まれている。（事業所拡張・流出防止対策） <p>【全体・その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業向け支援策（ソフト）は充実しているが、工業分野の企業向けインフラ整備（ハード）が不充分。 ○学研都市が近くにあるがメリットがない。
その他	<p>【災害対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害時の応援協力（ボランティアへの会議室提供、備蓄物資提供）など地域貢献に取り組みたい企業が出てきている。 ○市と企業の災害時の細かな情報共有がない。（特に大手企業は従業員規模において帰宅困難者など地域への影響が大きい。） ○企業へ災害時の対応研修が必要。 <p>【企業・従業員への地域情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○京田辺はどんなまちかを知る術が企業には少ない。地元の商品をもっと知っていれば企業でも利用出来る。 <p>【支援情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○支援情報入手に便利な媒体がない。

2. 工業振興の理想的な将来像（ビジョン）

■ ビジョンにつながるキーワード

- 出会い－知り合い－結びつく（市民と企業、企業と企業、企業と行政）
- 強み＝大都市へのアクセス（人・モノ・金の出入りが盛ん）、教育・研究機関（同志社、学研都市）の充実、多様な企業の存在
- 「住環境が整ったまち（現在）で働きやすい環境整備（未来）を」「住みよく、働きよいまち」
→ 住むのも働くのも快適なまち京田辺＝快適な操業環境・住環境
- 「産学公を繋ぐコーディネート機能の充実」「存続、拡大できる環境整備」→ 京田辺で生まれ（起業）、京田辺で育つ（発展）
- 地域ブランド発掘、住民力と企業力（地域ブランドに付加価値をつけて PR、地元に興味を持ちたくなる仕組みづくり）の融合
- まちの発展（住みやすい環境づくり）に繋がる工業振興（税収・インフラ整備・雇用→豊かな住民生活）

目指す将来像の実現に向けて取り組むべき方策は？

3. 工業分野の具体的な取組方策

分類	具体的な取組方策	
	取組方策	具体的な取組内容
担い手	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハローワーク等と連携したジョブマッチング事業（企業と就職担当教員との交流） ○ インターンシップ制度活用促進と高校生・大学生等のインターンシップ受入れ事業所バンクの創設 □ 企業の魅力等を発信する機会の創出（産業祭等での PR ブース設置） □ 企業と連携した工場見学ツアーの開催（企業と市民の交流の場創出）
	人材育成・事業承継	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業承継につながる企業間交流（情報交換）の機会の創出 ○ 人材（後継者）育成塾等への参加促進、専門家活用事業への支援 ○ 事業承継、新事業展開への補助金等
	創業・起業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 創業相談窓口の開設 ○ 創業ビジネス講座の開催、補助金等 ○ ポストインキュベーション（卒業後の事業拠点）の確保による市内立地誘導 □ 大学発ベンチャーの育成・支援の強化 □ 中小企業の人材確保・専門家派遣への支援（補助金）
製品・販路	企業－企業（産産）	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ型の異業種連携活動推進（新製品開発・専門展示商談会出展等） ○ 広域での産産連携のためのコーディネート機能の充実（コーディネーター配置） ○ 商談交流会の開催（つながる機会の創出） □ 企業間のマッチング・情報交換のためのインターネットツールの整備
	企業－学術・教育機関（产学研）	<ul style="list-style-type: none"> □ 中小企業の産業財産権取得、产学研連携への支援（補助金） □ 产学研連携コーディネーターによる企業訪問とマッチング支援
	新分野進出・販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国、府等での製品・技術力認証制度取得促進 □ 中小企業売込み隊事業による国内外への販路開拓支援 □ 魅力ある新製品・技術開発への支援（補助金） □ 中小企業の展示会出展への支援（補助金）
土地・環境	市内交通・利便施設	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通勤バスの利便性向上促進（例：複数企業組織による通勤バスの運用支援、通勤に的を絞ったバスダイヤ編成等） ○ 事業環境向上（利便性・安全対策）のための企業と行政の検討の場づくり ○ 宿泊施設立地に向けた検討（市内へ出張・来客用）
	土地利用・企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都府所有地等の有効活用の検討と提案 ○ 工場立地法の緑地規制の緩和検討 □ 京都府・近隣市町等と連携し、地域経済への波及効果の高い企業の誘致活動
その他	災害対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時の各種企業団体との連携や情報共有の仕組みづくり ○ 企業の地域貢献活動の PR □ 災害時応援協定の企業への周知、参加促進 □ 企業・住民一体型の防災訓練（防災意識の向上）
	企業・従業員への地域情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業の従業員の市内消費促進（情報発信、イベント参加） ○ 店舗の魅力発信、店舗利用促進の取組等による中心市街地への来街促進（駅前でのマルシェ、セミナー・相談会の開催、アンテナショップ開設）
	支援情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業向け広報紙の発行（市内企業紹介・支援情報等） □ 企業巡回訪問の徹底と継続的なニーズ把握